

もりもり通信 (森ヨシヒコ後援会報) No.21



八王子市議会議員

森ヨシヒコ 市政報告

(このレポートは市政・地域情報として、地域の方にも配布しています。)



森 喜彦(もりよしひこ) 1981年生。2006年八王子市役所に入所。2019年より八王子市議会議員(2期目)。無所属(会派は立憲民主・市民の会)。総務企画委員会委員、南多摩斎場組合議会議員、国民健康保険運営協議会委員(会長)。私立海城中学校・高等学校、東京都立大学卒(法学部)。趣味は天体観測、登山、自転車、バイクツーリング、アマチュア無線など。保護猫3匹と同居中。清川町在住。

つくろう 市民自治の豊かな社会

はじめに

年度末を控えた第一回定例会(会期 2/24~3/27)は、今年度の補正予算のほか、新年度から施行される制度や契約、予算について審議を行いました。市町村の議会と並行して、都議会や国会でも新年度予算がそれぞれ議論されますが、国家予算に関しては、解散総選挙で国会日程に空白が生まれた分、日程を圧縮して審議が行われています。新年度が迫っているからと言って、メ切ありきで雑な議論をするべきではありません。どういった考えや目標をもってどれだけの予算を使うのか、そこに市民の意見はどれだけ反映されているのか、財政民主主義が実現するよう、それぞれの立場でチェックが必要です。

2025年度補正予算と2026年度予算

年度末における補正予算審議は、税金の実績や国や都から拠出された支出金・補助金、事業の余剰金など、さまざまに増減した収入・支出の整理が中心です。今年度に関しては、12月に成立した国の補正予算(18.3兆円)に市町村を通じた物価高騰対策が含まれており、支出のあり方についても議論しました。新年度予算にも通じる話ですが、インフレを背景に税金が増えています。賃金や物価の上昇が個人所得や消費に反映するからです。一方で必要経費も増えているので、収入増は裕福を意味しません。この先の物価高が不安なのは、一般家庭も自治体も同じです。自治体の予算に剰余金が生じた場合は、法の定めによりその半分以上は財政調整基金に積み立てるほか、地方債の返済を進めるのが自治体経営の定石ですが、インフレが続けば貯金(基金)の実質価値は落ちるので、貯蓄と投資のバランスが問われるところです。この場合、税による「投資」とは金融商品の売買や企業活動への資金投入とは意味合いが違います。町の将来発展のため、学校や道路などの生活インフラを整備するのが典型ですが、今求められている投資とは、子育て環境や介護の充実による労働や生活の支援、市民の学習や活動の

場の充実、市職員の専門性確保に向けた採用や研修など、地域に関わる人や団体が育つ環境の整備ではないでしょうか。

補正予算審議において森ヨシヒコは立憲民主・市民の会を代表して質疑に立ち、投資と貯蓄のバランスのほか、桑都ペイを使った給付金事業の費用対効果、住まいの防犯補助金を活用した地域防犯力向上、認知症グループホームや小規模多機能型居宅介護施設の整備促進などについて質問をしました。

(詳細はインターネット中継をご覧ください。→)



本会議にて補正予算審議の会派代表質問で登壇する森ヨシヒコ

2026年度一般会計予算は過去最大の2451億円

3/3開催の本会議にて、初宿市長から新年度予算が提案されました。歳入面は物価高を背景に市税や地方消費税、普通交付税などが増えています。歳出面の増要因は、投資的経費として第二小学校・第四中学校の改築、経常経費において学習用タブレット端末の更新などが挙げられました。また、人件費の引き上げによる保育所運営費用の増加のほか、障害者自立支援給付や生活保護扶助対象者の増により、民生費が一般会計予算の53.6%を占めています。主要な事業としては、基礎となる安全安心のため、市民センター体育室への空調設置や地域循環バス「はちバス」の運行体制見直し、インフルエンザワクチン接種の充実などをとりくみ、そのうえで①経済成長、②賑わいの創造、③人財確保、定着育成を三本柱に事業をすすめます。具体的には八王子駅南口にできる新公園のオープンに関連した事業、創業支援や企業誘致、MICE

の開催誘致、発達に不安のある子に対する5歳児健康診査や不登校の子の構内の居場所を確保する校内別室指導の継続・拡充などです。森ヨシヒコが2024年に一般質問で実施を求めた、市内の崖・擁壁の改修工事を促進するための対策は実態調査という形で実現しました。

予算質疑を通じた意見や提案

予算審議のうち、総括質疑では受動喫煙対策(吸い殻のポイ捨て対策、喫煙所の配置見直しや機能向上)、社会教育と地域づくり(社会課題の学習と解決、実践の場としての公民館の役割を、現在の生涯学習センターや市民センターなどがどのように担っているのか)のほか、自転車とバスの利用環境改善による市内交通円滑化について質問しました。

新年度から16歳以上が運転する自転車の交通違反に青切符による取り締まりが導入されます。危険・悪質な違反の減少が期待される一方、道路環境整備が追いついていない車道走行にはトラブルが予想されます。ルールを学び直す機会や場所の提供、質問や相談を受け付ける窓口の整備を通じて、交差点部の案内表示や交差点改良、規制見直しに繋がられるような仕組みづくり、自転車が事故や渋滞の原因にならないような環境づくりなどの対策を求めました。

10月「はちバス」の運行形態が変わります。



収益減や運転手不足による路線バスの廃線・減便が全国で進んでいます。地域公共交通維持のため、全国の自治体で様々な試みがされています。先の総括質疑でも取り上げましたが、交通環境改善に関しては交差点

やバス停の改良、信号間隔の見直しなどです。バスが円滑安全に運行できるよう環境整備を進めることが事業性の向上、就労環境の改善、ひいては地域公共交通の維持につながります。はちバスは交通空白地帯への対策として導入されましたが、ルートが長すぎる(目的地になかなか着かない、本数が少ない)、鉄道駅を始点終点にすると既存バス路線とルートがかぶるといった課題がありました。10月開始予定の新運行体制は、運行日を隔日とし、生活圏を小回りするルートで路線数と運行本数を確保します。鉄道駅に行くためには既存路線への乗り換えが必要になる路線もありますので、乗り換えに関する情報提供や乗り換えバス停のバス待ち環境向上が必要となりま

す。シルバーパスの利用を継続した点は評価しますが、隔日の運行だと通勤通学には使えませんので、効果検証と見直しを速やかに実施してもらいたいと思います。

行政の信頼性を向上するために

予算等審査特別委員会の総務企画分科会では、日々増大する行政ニーズに向き合うための業務効率化、職場環境改善(カスタマーハラスメント対策、中途退職対策、職員研修や自主研修の取り組み、長時間労働対策など)について質問しました。新年度事業の市長提案には、服務規律向上に向けた内部統制制度の導入もありました。

これは元来、経営者や投資家のための制度です。経営者や従事者が入れ替わっても法令違反やトラブルが生じないように、業務上のリスクを洗い出し、セルフチェックや外部チェックをシステム化して企業の信頼性を高める仕組みですが、日本の行政機構においては決裁手順がその役割を担ってきました。業務に関する情報や手順が整理され、業務が効率化するという見方もありますが、既存業務の手順変更や新規案件対応の際に必要なチェックが多くなり、現場の柔軟な対応や自由な発想、チャレンジを阻害する、職場の風通しが悪化し、組織が衰退するというデメリットも指摘されています。制度は手段であってそれ自体が目的化しないよう注意しなければなりません。文書法務等の基礎能力向上に取り組むことの方が重要です。

写真で振り返る最近の活動



東日本大震災を機に始まった脱原発デモ(毎週金曜日夜)



市民団体と市民のマッチングイベントみんなの地域デビューパーティー



3月は国会前で平和を求めると集会が何度も行われました。

ニュースに対するご意見や感想、市政相談は下記まで気軽にお寄せください。後援会の加入、ポスター掲示の御協力、ポスティングなどのボランティアをしてくださる方もお待ちしております。発行・問合せ先: 森ヨシヒコ後援会 〒193-0804 東京都八王子市清川町19-10 Tel: 070-5580-6844/Fax: 042-698-5013 ホームページでの発信も行っています。(右QRコード) E-mail: info@moriyoshihiko.net WEB: <https://www.moriyoshihikohachioji.com/>

